

Costume and Textile

No. 4

服飾文化学会会報

2002年10月



大会・口頭発表

平成 13年度 事業報告

第 11期会長の就任に当って

石山 彰

「服飾文化学会」が発足して3年目に入る。こうして、過日の理事会で会長を留任するようのご指名であった。年齢の関係もあり、私にはいささか重荷で、もうのんびり余生をおくりたいとの希望もあって辞退したが、発起者の一人であることと、外見上若く見られ勝ちな点もあって（私はこれを“女子大の効用”と言う）押し切られた。こうしてお引受けした以上、当然責任を全うしなければならぬと、今は覚悟を決めている。いささか旧世代めくけれど。

ともあれ、第I期の間における役員の方々はじめ会員の方々、とりわけ事務局の皆様には一方ならずお世話になり、改めて厚くお礼を申し上げねばならない。と同時にまたこれからもどうぞよろしくご協力の程を願わねばならない。

なぜなら、学会というのは元来、半ばボランティア精神上に成り立つ面があり、それなくして維持することはむずかしい。つまり、相互に意見を交換し合う中から選びとって“せっさたくま”していくところにもつばらの意義を見出すものである

うから……。

ところで、いささか余談めくが、近ごろの私は新聞をよく読む。文部科学省の主旨に従ったというわけではないが、いわばそれだけ時間的にも精神上でも“ゆとり”をもてるようになったのであろう。事実、目下のもっぱらの楽しみは「読書」にある。妻とはいさかいを重ねながら購入し続けてきた文献が、書齋と書庫と縁側にまで山と積まれている。原書も多いこととて、これまでなかなか目をとおす暇もなく過ごしてきたが、それがようやく思い通りに手にとることができるようになった、というわけである。精神衛生上これにまさるうはずのものもない。

話はちがうが、私の新聞の読み方(見方の方式)は定まっている。当然、大活字や大写真から先に眼に入るから、まっ先に見るのが最下段の広告欄……ということになる。第1~2面のそこにはたいがい新刊書広告が載っているが、その中の関係書のめぼしいのを発注して1・2か月もすると、その本は不思議に書評面でとりあげられている。いつのまにかそうした選書眼が養われてきたのだろう

か。最近の例では井上章一の『パンツが見える』がある。多少衝撃的タイトルながら……。ドロワースの普及は「S.7年、日本橋白木屋火災」に起因する、というのはもはや一般の定説と化している。話としては面白いが、学説としてはまことに不備で、私は以前から否定せざるを得なかった。彼はそれを根気強く追求してきた、というわけである。参考まで……。

それにしても、学会設立後の時代は「21世紀」へと突入し、社会的にも文化的にも大きな変動を余儀なくしつつあるのはみてのとおりである。しかも、こうした状況は“服飾”の面にもっとも端的に反映するともいえる。私たちはたえず広い視野から確実な視点に立って、そうした現象を見つめる態度を身につけて行くことが必要であろう。学会の活動も同じく長期の視点で息ながくとらえる勇気をもたねばならないと思う。総会の際の杉本前監事の言葉にもあったように、私たちは当面会員の増殖に専念する必要がある、それがもっとも緊急の課題である。どうぞ会員の皆さんのご協力を切に願う次第である。

第3回 総会・大会の報告

服飾文化学会第3回総会・大会は2002年5月18日(土)、19日(日)の2日間にわたって、実践女子大学で開催された。実践女子大学は創立100周年を記念してキャンパスは一新され、広い中庭の傍らに会議室や大教室がある建物「香雪記念館」がつくられた。この中で総会や研究発表が盛大に繰り広げられた。JR中央線日野駅から徒歩13分ほどのところだが都心から少し離れているので多数の参加者が得られるか心配であったが、120名ほどの参加者を得て会が成功裏に終わり、会場校として皆様に感謝している。

その内容を、プログラムにそって報告する。

1) 口頭発表

第1部7件、第2部3件、合計10件の発表が行われた。衣服などに使用する布地(素材)の研究

は、それらを産する地域に出かけて観察して、伝統の技法や柄を文化的に考察している点大変興味深い。この他、オペラや宮廷モードを題材にした服飾史の研究、日本の人形や童画の細かな観察によるものがあつた。また、調査によって気分を明らかにし、あるいは実験によって新合織の評価を行なった研究があり、本学会員の研究の一端が披露され大変有意義であつた。

2) 作品展示発表

刺繍、スラッシュキルト、などによる作品、帽子、着尺、布地の展示、またマネキンにきせたドレスなど12件が会場一杯に展示され、どれを見ても楽しくそして、それらに対する熱心な研究のほどがうかがえる。このような盛況な発表はこの学会ならではのと思われる。



作品展示発表の様子

★ 5月18日 (土)

口頭発表 第1部	
14:00	<p>・座長 村井不二子</p> <p>A-1 遊牧民の伝統工芸に学ぶ 大手前女子短期大学 村岡三喜子</p> <p>A-2 アフリカへ輸出された有松絞りについて 共立女子大学大学院 ○川井裕里江 共立女子大学 伊藤 紀之</p> <p>A-3 インテリアへの絞り ー作家による新しい試みをとらえてー 岐阜市立女子短期大学 伊藤 陽子</p> <p>A-4 インドネシアの民族のこころと布 ーヌサテンガラ諸島の絁を中心にー 桜美林大学 渡辺くにえ</p>
	<p>・座長 渡辺くにえ</p> <p>A-5 ジャポニズムと服飾芸術 ーオペラ『蝶々夫人』にみるその変容ー 実践女子大学大学院修了 小林香名子</p> <p>A-6 「ギャラリー・デ・モード」にみる宮廷モードとパリの風俗 ー18世紀末ファッション・プレートの特質ー お茶の水女子大学大学院 西浦麻美子</p> <p>A-7 人形芸術・様式の展開とその周辺 山野美容芸術短期大学 澤村 英子</p>
15:45	
16:00	<p>特別講演「男子服飾の正統をめぐる闘争 ー19世紀イギリスにおけるジェントルマンシップとダンディズムー」 中野 香織</p>
17:15	
17:30	総会
18:00	
18:10	懇親会
19:30	

★ 5月19日 (日)

口頭発表 第2部	
9:45	<p>・座長 伊藤紀之</p> <p>B-1 武井武雄の童画と衣裳 青山学院女子短期大学 鈴木すゞ江</p>
	<p>・座長 佐藤泰子</p> <p>B-2 白衣着用時における気分の世代差 國學院大学栃木短期大学 杉田 洋子</p>
	<p>・座長 三石幸夫</p> <p>B-3 新合織(風合い素材)の洗浄方法について 東京家政学院大学大学院 ○榎原あゆみ 藤居真理子</p>
10:30	

作品展示発表 ショートスピーチ・質疑応答	
10:40	<p>・座長 高野美栄</p> <p>T-1 ハーダンガー刺繍とフリーステッチによる作品 和洋女子大学短期大学部 矢部 洋子</p> <p>T-2 多種素材による表現の可能性の研究 和洋女子大学 堀 ひろみ</p> <p>T-3 フェルティングと刺繍を組合わせたニット作品 和洋女子大学短期大学部 多田 洋子</p> <p>T-4 スラッシュキルトのベスト 相模女子大学短期大学部 田中 百子</p>
	<p>・座長 鷹司綸子</p> <p>T-5 兜からのヒントによる帽子 跡見学園女子大学短期大学 ○松本由伎子 本間小枝子</p> <p>T-6 タペストリー作品ーウエーブ茜緋ー 相模女子大学短期大学部 池田 節子</p> <p>T-7 真綿綿着尺 山梨県立女子短期大学 石山 正泰</p> <p>T-8 ドレスの配色によるイメージ変化 東京家政学院短期大学 高野 美栄</p>
	<p>・座長 本間小枝子</p> <p>T-9 重なるの構成ー素材の表情を引き出す衣服ー 成安造形大学 森下あおい</p> <p>T-10 教材研究として、写真及び文献を用いてのレプリカ作成 和洋女子大学 ○諏訪原貴子 鷹司 綸子</p> <p>T-11 インドネシアの民族のこころと布 桜美林大学 渡辺くにえ</p> <p>T-12 未来に向けてスウィング〈ウェディング〉II 大韓民国:麗水工業大学・共立女子大学大学院 金 美淑</p>
11:50	

3) 総会

永井房子庶務担当理事の司会で、平成14年度の総会が開催された。石山 彰会長の挨拶、会場校飯塚幸子学長のあいさつに続き、議事に入った。13年度事業報告、14年度事業計画案、そして13年度決算、14年度の予算案が承認された。また、14・15年度の役員選挙結果の報告があり、会則の変更が承認された。



総会

4) 特別講演

講師：中野香織氏

テーマ：「男子服飾の正統をめぐる闘争—19世紀イギリスにおけるジェントルマンシップとダンディズム」

女性のファッションでは様々なテイストが許されるが、男性ではどうだろうか？ということから話が始まり、以下のように中野氏はまとめられた。

イギリスの男性のファッション史を突き動かし、重要な要素のひとつが、「正しさ」「正統性」である。「正統性」の基準は、同時代の政治権力、およびそれを根本で支えているジェントルマンシップの理念と密接に結びついている。逆に言えば、政治権力が変わればジェントルマンシップの理念も変わり、それを反映する正統性の基準も変わるということである。

近代的スーツの原型が誕生したのは19世紀の初頭から中期のイギリスであったが、封建的貴族制社会から近代的市民社会への転換期にあったこの時代は、男性服の「正統性」をめぐる激しい闘争が繰り上げられた時代でもあった。ファッショ



特別講演の中野香織氏

ンのみならず、文学、政治、経済をまきこんだリージェンシー・ダンディズムとヴィクトリアン・ジェントルマンシップの闘争においては、「正しい(=本物の)ジェントルマン」がそれぞれどのようにとらえられていたのか、そして最終的にはどのような形で決着が着くにいたるのか、その名残が現在のスーツにどのような影響を与えているのかを解説された。

5) 懇親会

学内食堂「カルパーラ」で開催。藤居真理子大会担当理事の司会で始まり、三石幸夫理事の乾杯の音頭から会員はそれぞれのテーブルで歓談した。藤居真理子先生の「……見た目も美しく……」という挨拶は会場校としては、うれしい言葉であった。49名参加

6) 見学会

三鷹市にある中近東文化センターに各自で集った。参加者24名

桜井清彦氏の講演は、午後3時から始まり、これまでの研究を紹介された。それは、アイヌの研究に始まり、エジプト、トルコなどにおける発掘調査である。このセンターには発掘された貴重な資料が多数展示されている。特別展として、「中近東の馬」が開催されていて、館員による解説をうかがった。中国、イラン、トルコなどに残る遺品(円筒印章、青銅製品、コイン、イスラム陶器、細密画など)に表現された馬と文化のかかわりを興味深く見学した。

(総会・大会実行委員長 鍛島 康子)

第3回夏期セミナーを終えて

本年度の夏期セミナーは平成14年8月1日(木)～3日(土)の日程で、山形県を会場に開催された。初日は山形市の県庁近くの遊学館山形県生涯学習センターにおいて、石井とめ子氏司会のもと、徳永幾久氏の講演をいただいた。会場にはご

自身が収集された資料が数多く展示された。それらを手にとって解説され、活発な質疑応答を交えた有益な時を過ごした。

二日目は、会場を酒田市に移し本間美術館を見学した。村井不二子氏の司会で館長の高瀬靖氏の

第3回夏期セミナープログラム

日 時	内 容	
8月1日 (木)	12:30～13:00	受付
	13:00～13:05	開会の挨拶
		服飾文化学会 会長 石山 彰 氏 (副会長 石井とめ子氏代読)
	13:10～14:40	講演『山形県の服飾文化－型から形へ』 徳永 幾久氏
	14:40～15:00	休憩 (コーヒーブレイク)
	15:00～16:00	資料の解説 徳永 幾久氏
	16:00～16:30	会員の意見交換及び質疑
	16:40	遊学館出発
18:30	酒田セントラルホテル着	
19:00～	懇親会 (ホテル内宴会場)	
8月2日 (金)	9:15	ホテル出発
	9:30	本間美術館 着
	9:30～11:30	講演と解説『本間家火事装束にみる本間家と酒田の文化』 館長 高瀬 靖氏
	11:45～13:30	昼食 酒田東急イン内 [ル・ポット・フー] (希望者)
	13:30～16:30	市内自由見学 酒田市立資料館、日本間家 山居倉庫・庄内米歴史資料館、等
	16:45	各自酒田セントラルホテルへ 各自夕食
8月3日 (土)	8:30	ホテル出発
	9:15	致道博物館 着
	9:15～ 9:20	挨拶 館長 酒井忠久氏
	9:20～11:15	講演と解説『致道博物館の民俗資料－服物を中心として－』 副館長 犬塚幹士氏
	12:00～12:45	昼食 [羽黒山参籠所・斎館 (精進料理)]
	13:00	出羽三山神社三神合祭殿
	14:00	羽黒山五重塔
	15:15～15:30	休憩 月山湖
	16:30	山形駅着 解散



夏期セミナー参加の皆さん (本間美術館)

講演をお聞きした。市内には歴史ある見学場所が多く、参加者各自の関心事を中心に旧本間家、山居倉庫・庄内米歴史資料館、酒田市立資料館、土門拳記念館などへ足を運んだ。なかには酒田の古い文化を伝える服飾資料を収集した人たちもあつ

たようだ。夜はホテル近くの大通りで開かれた「酒田湊・甚句流し」のパレードを楽しまれた方々も多かった。

三日目は民俗資料の収蔵で知られる酒田市の致道博物館を会場にした。蔵方宏昌氏の司会のもと、館長の挨拶に引き続き、副館長の犬塚幹士氏による館蔵品の服物を中心にした講演があった。文献等の図版でしか知ることのできなかった資料を、手に取って直接みることができ、貴重な体験ができた。講演後、犬塚氏の解説を受けながら館内の民俗資料の数々を見学した。

2泊3日の夏期セミナーは、長いようで短かった。まだまだ見たいものや行きたいところがあったようで、いつの日かもう一度訪れたいという余韻を残し、山形を後にした。

(夏期セミナー担当 伊藤 紀之)

故郷再認識の旅

東京家政学院短期大学 井澤 尚子

この「わが郷里山形」でのセミナー参加が、故郷の文化を再認識する機会になろうとは、私自身考えにもおよばなかった。

東北での開催ということで、多少の涼を期待した参加者も多かったのではと推測されるが、予想に反し山形駅に降り立った時の暑さには、内陸地方で生まれ育った私さえ驚いたほどである。

セミナー第1日目は、米沢女子短期大学名誉教授徳永幾久先生の『山形県の服飾文化 一型から形へ』と題するご講演。さらに、先生が永年収集された貴重な資料の解説を、スライドを交えながら時間の許す限りお話しいただいた。

先生によると、山形県の服飾文化の特色は、完成された生活様式文化以前の「人間守護を基礎とした素材利用の表現化」が多いことであるという。それは「人間は心、身体は衣服、衣服は人間の主張」という衣装哲学そのものの表現でもあるという。人間が人間を生み、「人として、家族として、社会の中の一人として」大切に育み続けるなかで

の「生きる志の表現」が、先生所蔵の刺し子資料の文様にも数多く残されている。また、それら資料の手仕事の素晴らしさには、目を見張るものがあった。その技術、能力は諸外国からも高く評価されているという。それは、技術の素晴らしさと共に、わが子の成長、夫の大成等、人間形成をひたすら祈り続けた「人間の心」が、物言わぬ妻女たちの主張として、衣服文様に表現されているか



「山形県の服飾文化一型から形へ」講演：徳永幾久氏

らにほかならない。先生は、この生活文化を作り上げた妻女たちの「こころ」を正しく理解し、言葉として形としたいと結ばれた。

私自身、故郷の一文化の裏側で、彼女たちの思いが脈々と受け継がれてきたことに、感動と敬意の念を感じずにはいられなかった。

講演の後、参加者全員がバスで移動。山形市を後に酒田市へと向った。出羽三山のひとつ月山を望む山形自動車道を通ってのバスの旅は2時間。宿泊先である「酒田セントラルホテル」に到着し、夕食を兼ねた懇親会が行われ、なごやかなうちに第1日目を終了した。

本間家と酒田の文化

武蔵大学大学院 本間 洋子

本間美術館の本館と名園は、冬場に仕事がない船頭の失業救済事業として、本間家四代光道が文化10年に築造した別荘である。

当初、平家建であったが、大正天皇来臨とのことで上げた二階に於て、本間家の防災対策の一端である火事羽織、火事マント、陣羽織等の展示、解説があった。素材は羅紗、麻、木綿等を用い、マル本の家紋と裏紋の笹りんどうが随所に付けられている。京都に発注したもので、精巧な仕立てで洗練されており、勤儉力行の家風に比べ華麗なものである。

酒田は風が強く、大火の発生率が高かったことが記録にも残っている。本間家は町に防災基金を寄付し、利子で消防器具を調達したり、被災者救済基金を拠出している。本邸に於ては火事装束のみならず、土塀、土蔵、林等構造物を配し、夜廻り他防災の知恵により、高瀬館長の家も焼失したという昭和51年酒田大火にも難を逃れ、武家屋敷と商家造りが一体となっている建築様式を今に残している。

床の間に掛けられた酒田の古地図によると庄内浜一帯が樹木一本ない砂漠地帯であったと見られる。「砂塵万丈、畑を埋め田を没し——天日ために暗く、殆と目もあけられぬほどなり」という程の風砂の害に対し、「父親の遺言だ」の一言で西浜砂防林事業として個人で植林に心血を注いだのが三代光丘である。

本間家が豪商とか全国屈指の大地主となるには、光丘の理念が累代の基礎を築く土台となった。莫大な土地集積に於ても、百年もの質入れ期間、請返し可能、低金利等決して非道なものではなかった。社会事業を行いながら、諸藩、農民、町民に対して貸金制度を進め、相手を一時的に助けるだけでなく、回生させ、貸金も生かし、感謝され、自分もメリットがあるコンサルティングの考え方である。

高瀬氏は汗をふきふき、まるで身内の様に光丘を語り、参加者も暑さを忘れて聞き入った。後々まで思い出に残る講義となった。

致道博物館と羽黒山を巡って

東京慈恵会医科大学 蔵方 宏昌

セミナー3日目は、鶴岡市に移動し「致道博物館」で講演と見学が行われた。

先ず、酒井忠久館長から施設の概要が紹介された。ここは鶴ヶ岡城三の丸にあった庄内藩の御用屋敷跡であり、藩主御隠殿と酒井家古庭園が残っている。敷地内には、田麦俣の兜造り民家や、明

治時代に建てられた西田川郡役所と鶴岡警察署が移築されている。ここには藩校「致道館」の資料や庄内地方の民俗資料（バンドリ・漁撈用具・米作り用具など）が保存されていて、民俗資料のうち5,350点が重要有形民俗文化財に指定されているという。



致道博物館見学風景

続いて、犬塚幹士副館長が「致道博物館の民俗資料—服物を中心として—」と題して講演された。庄内地方に木綿が普及したのは江戸時代中頃だが、庶民農民にまでは行き渡らず、元禄時代に「黒川能」を城内で舞う時、藩費を渡して木綿着を着せたという。日本海の舟運で庄内に入った木綿は、明治初めまで古手木綿（木綿の古着）が多く、古

手木綿の再生方法として、サシコやサキオリが発展した。木綿が入る以前は麻・科・藤・からむし・ゼンマイなどから繊維をとっていた。雪の時期が長く季節風が強い庄内地方では、ハンコタンナ・カガボシ・マルボシ・フロシキボッチ・テナガボッチなどという独特な“かぶりもの”が普及した。機能性に装飾性が加わった藁細工として背中当て（バンドリ）やミノなどがあるという。

話の内容に即して、衣類やバンドリの実物を見せ触らせての講演であった。講演の後、犬塚副館長は企画展示「まじないといのり—民俗資料を中心に—」と収蔵庫の民俗資料などを解説された。

館長・副館長に送られ、羽黒山へ向った。出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）の三神を合祭した霊祭殿を参詣した後、修験者らの参籠所「斎館」で精進料理を味わい、平将門創建と伝わる五重塔を見てから月山湖を通過して山形駅で解散した。

服飾文化学会会則の改正

新	旧
<p>(役員の選任)</p> <p>第18条 本会の役員は、別に定めるところの<u>選挙</u>により、理事および監事を正会員から選出する。</p> <p>[挿入] 2. 会長は必要に応じて、評議員の中から、<u>理事会の承認</u>を得て、理事若干名を委嘱することができる。</p> <p>3. 別に定めるところにより、理事から会長および副会長を選出する。</p> <p>付 則</p> <p>本会則は2000年1月29日より施行する。 本会則の改正は、2001年5月19日より施行する。 本会則の改正は、2002年5月18日より施行する。</p>	<p>(役員の選任)</p> <p>第18条 本会の役員は、別に定めるところにより、理事および監事は正会員から選出する。</p> <p>2. 別に定めるところにより、理事から会長および副会長を選出する。</p> <p>付 則</p> <p>2. 本会則は、2000年1月29日、大妻女子大学で開催される発起人総会をもって発行する。</p>

服飾文化学会細則の改正

新	旧
<p>第2条 会務の分担</p> <p>理事会は、総務、財務、庶務、編集、企画、その他必要事項を担当するものを決めなければならない。</p>	<p>第2条 会務の分担</p> <p>理事会は、総務、財務、編集、企画、その他必要事項を担当するものを決めなければならない。</p>

平成 14・15年度役員

理 事

会 長 石山 彰 文化女子大学名誉教授
副会長 石井とめ子 大妻女子大学
副会長 伊藤 紀之 共立女子大学
池田 節子 相模女子大学
石山 正泰 山梨県立女子短期大学
泉山 幸代 北海道浅井学園大学短期大学部
大網美代子 大妻女子大学 (非)
岡田 宣世 女子美術大学短期大学部
小笠原小枝 日本女子大学
鍛島 康子 実践女子大学
蔵方 宏昌 東京慈恵会医科大学国領校(非)
佐藤 泰子 文化女子大学
杉田 洋子 國學院大學栃木短期大学
杉本 正年 民族学者

鷹司 綸子 和洋女子大学
高野 美栄 東京家政学院短期大学
塚田 耕一 杉野服飾大学
常見美紀子 京都女子大学
徳井 淑子 お茶の水女子大学
永井 房子 相模女子大学
永野 順子 和洋女子大学名誉教授
藤居眞理子 東京家政学院大学
本間小枝子 跡見学園女子大学短期大学部
三石 幸夫 聖徳大学
村井不二子 昭和女子大学名誉教授
渡辺くにえ 桜美林大学

監 事 飯塚 弘子 文化女子大学
佐々井 啓 日本女子大学

会計報告

① 服飾文化学会 平成 13 年度収支決算報告
(H13. 4. 1~H14. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算	決 算	備 考
会 費 収 入	852,000	808,000	@6,000×131
入 会 金 収 入	25,000	12,000	@3,000× 9
年間購読料収入	3,000	39,000	@1,000× 10
学会誌掲載料等	450,000	382,300	@500× 4
特別会計より繰入	0	156,460	@3,000× 13
その他の収入	0	927	利子等
前年度繰越金	△27,376		
計	1,302,624	1,398,687	
経費			
1)総会運営費	100,000	83,950	
2)学会誌発行費	850,000	669,232	
3)通 信 費	30,000	35,900	
4)印 刷 費	70,000	140,880	会報2・3号
5)事務用品費	10,000	9,018	
6)会 議 費	50,000	27,081	
7)交 通 費	10,000	0	
8)雑 費	20,000	0	
事業費			
1)事 業 費 A	30,000	28,500	研究例会
2)事 業 費 B	120,000	96,542	論文発表会
3)事 業 費 C		138,531	会員名簿作成
4)事 業 費 D		33,268	H14・15年度 役員選挙経費
広報費	10,000	17,020	
予備費	2,624	0	
次年度繰越金		118,765	
計	1,302,624	1,398,687	

② 特別会計

○夏期セミナー等余剰金	612,857 円
内訳 前年度繰越金	537,487 円
平成 13 年度分	231,735 円
利子	95 円
事業費へ	△156,460 円

③ 服飾文化学会 平成 14 年度収支予算
(H14. 4. 1~H15. 3. 31)

(単位: 円)

費 目	予 算 額	前 年 度	備 考
会 費 収 入	804,000	852,000	
入 会 金 収 入	15,000	25,000	
年間購読料収入	36,000	3,000	
学会誌掲載料等	400,000	450,000	
その他の収入			
前年度繰越金	118,765	△27,376	
計	1,373,765	1,302,624	
経費			
1)総会運営費	100,000	100,000	
2)学会誌発行費	750,000	850,000	
3)通 信 費	50,000	30,000	
4)印 刷 費	140,000	70,000	会報
5)事務用品費	10,000	10,000	
6)会 議 費	50,000	50,000	
7)交 通 費	10,000	10,000	
8)雑 費	20,000	20,000	
事業費			
1)事 業 費 A	30,000	30,000	研究例会
2)事 業 費 B	120,000	120,000	論文発表会
広報費	20,000	10,000	
予備費	73,765	2,624	
計	1,373,765	1,302,624	

***** 編集後記 *****

季節がめぐり、秋日和の心地よい頃となりました。会報第4号をお届けいたします。本号には、今年度のスタートから8月開催の夏期セミナー報告までを掲載しました。紙面は、その間の学会事業活動の報告と通知を満載して、通常の2頁増の刊行です。それらが無機質に感じられないのは、いずれの記事にも、寄稿下さった方々の心が伝わるからであろうと思われました。

一方で、会報が会員の声の広場ともなりますよう、関連の情報や見聞報告・感想・意見などを事務局にお寄せ下さいますよう、よろしく願いたします。
(会報編集担当 佐藤)